

## 学会大会課題研究の登壇者募集

### 課題研究活動委員会

本年度の課題研究は昨年承認された新しい試みの継続として、課題研究活動委員会で選定した下記の課題について、会員から自薦での登壇者の公募を行います。皆さんにとって関心が高い課題について、研究実績や教育実践をお持ちの方を選定して、学会活動を活性化していきたいと思っています。多くの会員の応募を期待しています。

### 課題研究のテーマ：「ウィズコロナ・ポストコロナの初年次教育」

#### 1. 問題の所在と背景

新型コロナウイルス感染症（以下 COVID-19）が世界中で拡大し、WHO（世界保健機関）が 2020 年 3 月 11 日に世界的流行としてパンデミック状態であることを宣言して以来、世界は COVID-19 の影響を受け続けている。この間ワクチンが開発され、学校・高等教育も従来のオンライン授業一辺倒から対面授業へと戻りつつある。今後は 5 類相当に移行することが考慮されるなど、ニューノーマルあるいはウィズコロナという新たな状況のなかで、人類はポストコロナの生活を考えることが求められている。経済活動への影響はもとより、高等教育機関へのこれまでの未曾有のコロナパンデミックの影響は甚大かつ計り知れない。とりわけ、コロナ世代と呼ばれる 2023 年度に 4 年生になる世代は、入学時からオンライン授業が標準的な授業形態でもあり、かつ部活動や正課外での活動も極めて経験することが限られていたといえる。高校時代にコロナ禍を経験した世代が大学にすでに進学してきており、こうした世代の過去の経験に対していかに初年次教育が対応するかも新たな課題であるといえる。

従来、初年次教育は、高校から大学への円滑な移行を支援するための教育として、学業面での移行のみならず、新入生の自己肯定感を向上させ、大学というコミュニティへの帰属意識を持たせることで、人間関係を円滑化することをも目的とし、実際に寄与してきた。それゆえ、初年次教育がほとんどの高等教育機関において、普及し、プログラムとして構築されてきた理由でもあった。

しかし、COVID-19 の拡大による状況において、従来対面型でこうした機能を充実させ、貢献してきた初年次教育が、果たしてオンラインが中心となる状況において、どれだけこうした機能を果たし、新入生を導いているかについての研究やグッドプラクティスの蓄積もほとんどみられない。また、オンラインテクノロジーや DX の発達によりこうした初年次教育の機能をどれだけ果たしているかというデータも提示されていない。

ポストコロナにおいて、規制が緩和されたとしても、従来通りの大学の姿に戻ると予想できないとすれば、現在のウィズコロナの状況において、初年次教育が、いかに新入生の自己肯定感を支え、心理的安定に寄与し、将来への確実なプランを立てるかなど、今後の新入生が充実した大学生活を送るうえでの鍵となると思われる。

そこで、グッドプラクティスだけでなく、研究としての蓄積にもなるような内容を深めていくことを目的として、課題研究グループでは、2 年間にわたって、このテーマを扱い、学会としてこの課題に取り組むことにし、本年度は 2 年目の試みとなる。1 年目には、3 つの取組が選定され、大会シンポジウムで報告され、学会誌に掲載されるという成果につながっている。

今後の学会活動を担っていく人材を発掘するという事に鑑みて、本テーマやサブテーマに関連して研究を行っている、あるいは実践を行っている話題提供者を公募するという形で発掘することにしたい。

なお、大テーマは、ウィズコロナ・ポストコロナの初年次教育であるが、サブテーマとして以下の 5 つを立てている。サブテーマは必ずしも 1 つのみではなく、複数にまたがる場合も可とし、発表には、事例（実践）に分析的な観点も含まれていることを要件としたい。

## サブテーマ

- (1) 自己効力感、自己肯定感、心理的安全性、帰属意識（所属感）
- (2) DX・オンラインとリアルな体験、グループワーク
- (3) キャリアプラン、ライフキャリア
- (4) 入学前教育
- (5) 教育過程や学修成果の分析や評価の方法

## **2. 選考の方法・スケジュール**

この選考にあたっては、皆さまのこの3余のコロナ禍のもとでの初年次教育を实践されてきた経験を通じての好実践や研究成果から、これからの初年次教育や大学教育の在り方を考えつつ、課題発見から課題解決につなげることをめざし、昨年度と今年度の2年間を通してこの課題をとりあげていきます。

課題意識の明確性、実践実績または分析の説得力、発展性、汎用性、などの観点から審査いたします。

募集人員：3名程度

### (1) 書類選考

800字程度に、研究報告の概要についてまとめてもらう。

① タイトル、②サブテーマのいずれに該当するか（複数可）、③報告内容（内容、方法）、④氏名、所属を記載

送付先：学会事務局 jafye-office@bunken.co.jp

締切：4月18日17時

(2) 審査委員会で書類選考通過者に面談（Zoom）4月24～29日頃を予定  
課題研究委員会で選考結果決定・通知：4月末頃を予定

登壇者の審査・調整を行い、サブテーマ、登壇者確定

(3) 登壇者打合せ：5月中旬以降を予定

## **3. 審査担当者**

課題研究委員会：濱名篤、山田礼子、森朋子、山田剛史